

令和7年度（2025年度）

令和7年7月31日（木）熊本市議会の本会議場において開催。昨年に引き続き、熊本市内の市立・私立・国立の各中学校の代表生徒51人が参加しました。

今年は、「私たちの『声』が生きる学校づくり・まちづくりについて話し合おう」をテーマに、中学生が主体的に学校づくりやまちづくりに参画するための仕組みづくりや進め方について、4つの分科会に分かれて話し合いました。

研修Ⅰ 「こども基本法」及び「児童の権利に関する条約」について学ぶ



こども基本法の基本理念等について知るとともに、この法律が作られた理由やこども議会の目的とのつながりについて考えました。

研修Ⅱ 4つの分科会に分かれて話し合う



「私たちの『声』が生きる学校・まちとは、どんな学校・まちか？」について考え、その後、それぞれの分科会のテーマについて、現状の取組や課題を出し合い、どんなことができるかアイデアを話し合いました。

研修Ⅲ 本会議場での意見表明



研修Ⅱで考えた意見を取りまとめ、分科会ごとに報告しました。それぞれの報告に対して、フロアからも質問や意見がたくさん出て、活発な意見交換ができました。

【分科会 A】 学校づくり：校則見直しをもっと充実させるには

A 分科会が考える「私たちの声が生きる学校」とは、「全員が主体となり、どんな声も尊重される話し合いができる学校」。校則見直しの話し合いもその一つであり、下の4つの視点で、考えたアイデアをまとめて報告しました。

- ・生徒一人一人が責任を持って取り組むには
- ・誰もが納得のいく見直しにするには
- ・みんなが共通理解をするためには
- ・校則見直しに対するみんなの意識を変えるには

【分科会 B】 学校づくり：生徒会活動の活性化・主体的に参加できる仕組みづくり

B 分科会が考える「私たちの声が生きる学校」とは、「一人一人が生徒会の一員という自覚を持って、堂々と生活できる学校」。

- ・子ども一人一人が楽しめて、意見が出せる仕組みと使いやすい（否定されない）雰囲気づくりが大切、そして意見が反映されることも大事。
- ・各活動の内容と目的が認知されなければ参加意欲も低下する。

ということを踏まえ、挨拶運動などの現状の取組についてブラッシュアップするアイデア等を報告しました。

【分科会 C】 まちづくり：地域交流・地域貢献

C 分科会は「全員が自分事として意見を持ち、一緒に話し合えて交流できるまち」を目指して話し合いました。熊本や校区のよさもあるけれど、地域との関わり・活動が減っていることや若者が地域のことをどれだけ真剣に考えているかに課題があると捉え、地域のことに意見を出せるような仕組みができないかを考えました。イベントのポスター作りや子ども実行委員会を立ち上げることは自分たちにもできること、告知や環境整備は大人に協力してもらいたいこととして意見を報告しました。

【分科会 D】 まちづくり：防災・安全

D 分科会は、まず、熊本の治安の良さに着目し、身の回りの自治活動として防犯パトロールや地区生徒会、校区の清掃活動などを報告しました。

また、気になることとして、公園等へのごみのポイ捨て、街灯の少なさからくる夜の下校時の安全対策、騒音問題について、中学生にできることと市に取り組んでほしいことをまとめて報告しました。

